

大阪大学ツアー2026 実施概要

■日 時：令和8年11月7日（土） 13:30～17:10 ＊開場 13:00

■場 所：大阪大学 豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂、シグマホール
// 吹田キャンパス コンベンションセンター MOホール

■講義実施学部：豊中キャンパス：基礎工学部・理学部・人間科学部・法学部
吹田キャンパス：工学部・薬学部 計6学部

■プログラム：

キャンパス		豊中キャンパス		吹田キャンパス	
会場		大阪大学会館 講堂 (最大300)	シグマホール (最大200)	コンベンションセンター MOホール (最大450)	会議室 I
	13:00	開場		開場	
	13:30	大学概要説明（中継）		大学概要説明 田中敏宏 理事・副学長	
	14:00	休憩(10分)		休憩(10分)	
1部	14:10	模擬講義 人間科学部	模擬講義 基礎工学部	模擬講義 工学部	
	15:25	休憩(30分) ※生徒入れ替え	休憩(30分) ※生徒入れ替え	休憩(30分) ※生徒入れ替え	
2部	15:55	模擬講義 法学部	模擬講義 理学部	模擬講義 薬学部	学生による 実験教室 (工学部受講者対象)
	17:10				

＊1部の講義の参加者は大学概要説明も参加してください（MOホール以外はYouTubeLiveで配信）
2部の参加者でも、会場に余裕があれば、希望者は大学概要説明に参加いただくことができます。
また、翌日まで概要説明の動画を視聴することが可能です。

＊YouTube Live URL：<https://youtube.com/live/2s8gwkj5s1c>

■GLHS大阪大学ツアー情報サイト

確定したプログラムや会場への案内マップなどを随時こちらのサイトに載せていきます。

https://koudai.osaka-u.ac.jp/20260902_7246/



■講義概略

(1) 人間科学部

【会場】豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂 【定員】300名

【時刻】14:10～15:25

【担当教員】八十島 安伸 研究科長・教授（人間科学研究科 人間科学専攻）

【講義タイトル・概要】

「食べ物への好き嫌いを科学してみる」

すべての人間にとって「食べる」という行動は必須であり、食べることが大好きな人も多いことでしょう。その中で、どうしても食べられないという、とても苦手な食べ物を持つ人も多いかもしれません。なぜ、食べられないのでしょうか。そもそも、好き嫌いには科学的に説明できる理由はあるのでしょうか。本講義では、好き嫌いの種類や特徴と、それらの好き嫌いを生み出す脳と身体の仕組みやメカニズムについて概説します。そして、文系・理系の双方の科学を融合させた文理融合型研究の対象として好き嫌いを科学します。

(2) 法学部

【会場】豊中キャンパス 大阪大学会館 講堂 【定員】300名

【時刻】15:55～17:10

【担当教員】小原 美紀 教授（国際公共政策研究科 比較公共政策専攻）

【講義タイトル・概要】

「スマホを禁止すれば成績は上がる？ーデータから考える公共政策」

「スマホをやめなさい。成績が下がるよ！」ー本当に？ それなら子どものスマホ利用を禁止すればよい？データから因果関係を見つけ、社会全体にとって望ましい政策を考えるのは、そう簡単ではありません。必要なのは難しい計算ではなく、数字を論理的に考える力と、言葉を通じて人や社会を理解する力。この講義では身近な問題を題材に、人々の行動や社会をデータで読み解く経済学の面白さと、法学部で公共政策を学ぶ楽しさを紹介します。

(3) 基礎工学部

【会場】豊中キャンパス シグマホール 【定員】200名

【時刻】14:10～15:25

【担当教員】西山 憲和 教授（基礎工学研究科 物質創成専攻 化学工学領域）

【講義タイトル・概要】

「ナノ空間材料が拓く持続可能な資源循環型社会」

19世紀から20世紀にかけて発展した化学物質の大量生産技術は、その後のものづくり産業の発展を支え、人類社会の成長と繁栄に大きく貢献してきました。一方、21世紀には、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会から、資源を循環利用する持続可能な社会への転換が求められています。本講演では、物質変換やエネルギー貯蔵を支えるゼオライトやカーボンなどのナノ空間材料に焦点を当て、その特徴と最新の研究開発事例を紹介します。

(4) 理学部

【会場】 豊中キャンパス シグマホール *2つの講義があります。 【定員】 200名

【時刻】 15:55~17:10

【担当教員1】 進藤 麻子 教授（理学研究科 生物科学専攻）

【講義タイトル・概要】

「カエルの卵から学ぶ発生生物学」

私たちの人生は、お母さんのお腹の中で、受精卵と呼ばれるたった1つの細胞の姿から始まりました。ボールのように丸い1つの細胞から、どのようにして複雑な形をした体と臓器がつくられるのでしょうか。その仕組みを研究する学問が「発生生物学」です。この講義では、カエルの卵とオタマジャクシを使って、細胞がどのように動き、形を変え、集まることで体と臓器ができていくのかを明らかにしようとする研究を紹介します。

【担当教員2】 難波 康祐 教授（理学研究科 化学専攻）

【講義タイトル・概要】

「有機化学：分子をつくる、操る、役立てる」

自然界の全ての現象には化学反応が関わっています。生命活動の維持から思考や記憶に至るまで様々な化学反応が関与しており、それらの化学反応には有機化合物(分子)が密接に関わっています。有機化学者はそういった有機化合物をうまく利用することで自然界に起こる様々な現象を分子のレベルで解明することが可能です。また、自然現象に関わる有機分子を巧み利用することで、世界の様々な問題を解決する糸口が掴めます。本講義では、天然の有機分子を利用して世界の食糧問題を解決する私達の取り組みについて紹介します。

(5) 工学部

【会場】 吹田キャンパス コンベンションセンター MOホール 【定員】 450名

【時刻】 14:10~15:25

【担当教員】 村田 勲 教授（工学研究科環境エネルギー工学専攻）

【講義タイトル・概要】

「新しい放射線がん治療法-ホウ素中性子捕捉療法 (BNCT) -」

ホウ素中性子捕捉療法は、日本発の新しいがん治療法です。腫瘍細胞選択性があることから、正常細胞を傷つけ難く、浅い位置にあるがんはほぼ治療できます。問題は深部がんです。いま多くの研究者がその問題に取り組んでいます。本講義では、BNCTの詳細と、私たち工学の研究者がBNCTの問題にどのように取り組んでいるか紹介します。

(6) 薬学部

【会場】吹田キャンパス コンベンションセンター MOホール 【定員】450名

【時刻】15:55～17:10

【担当教員】齊藤 達哉 教授（薬学研究科 医療薬学専攻）

【講義タイトル・概要】

「薬系免疫学入門 –免疫を標的とする薬を知ろう–」

免疫は、細菌やウイルスから体を守る重要な仕組みですが、働き方を誤ると自分の体を傷つけ、さまざまな病気の原因にもなります。本講義では、自然免疫と獲得免疫を中心に、免疫細胞が異物を感じ、情報を伝え、排除する仕組みと、その反応を抑える仕組みを学びます。さらに、ワクチン、抗炎症薬、がん免疫療法を例に、免疫の働きを利用・調節することが、どのように病気の予防や治療につながるのかを紹介します。

(5) 工学部-2：学生による実験教室（工学部講義受講者対象）

【会場】吹田キャンパス コンベンションセンターI階 会議室I 【定員】48名

【時刻】15:55～17:10

【担当】大学院工学研究科の学生

（Optica/SPIE Student Chapterの学生 <https://studentchapter2.wixsite.com/chaptersite>）

【タイトル・概要】

「教科書の問題は再現できるのか!?～光の回折・干渉編～」

物理の教科書に載っている問題はさまざまな公式をうまく使うことで解くことができます。ここで、計算によって求められる結果はどの程度正しいものなのでしょうか？現実では空気抵抗も摩擦もないものとはできません。今回は光の回折、干渉を例にとり教科書に載っているような簡単な問題を解き、同じ実験を実際に行うことで、それを確かめてみましょう。また、私たちの専門分野である光の持つ様々な可能性を紹介します。

以上